

1. まきどき(5~6月)発芽適温 25°C
2. 開花期(8~9月)

用意する物

培養土、プランター、ツルをはわせるネット、支柱 2~3本、肥料(油かす、お米のとぎ汁など遅効性の肥料)、植物用消毒薬(害虫対策)



1. プランターに種をまく準備

アサガオの種は硬いので、一晩水につけて吸水させてからまくと発芽がそろいます。

プランターに薄く小石を敷いて水はけをよくします。その上にプランターの 8~9 割程度の培養土を、空気を入れるようにふんわりと入れます。

【ポイント】

- 毎年同じところに作ると(連作)、ヒョロヒョロとして繁りません。土をかえるか、土改良剤を入れると良いでしょう。

2. 種をまき、芽が出たら

種をまき、土を 5mm 程度かぶせて水をあたえます。

芽が出たら間引きし、10cm 程度離します。

苗が小さいうちは化学肥料をあたえると

茎ばかり伸びて葉が繁らないので要注意。水は朝夕 2 回あたえます。



【ポイント】

- できれば別の鉢で苗にしてからプランターなどに移すと良いでしょう。
- 肥料は根元から少し離してあたえます。臭いを抑えたり、肥料に害虫がつかないためには少し土をかぶせます。
- 根も呼吸をしています。土が硬くなったら離れたところを少しほぐしてあげましょう。
- 遅効性の肥料は、油かす、お米のとぎ汁などがおすすめ。

3. つるが成長してきたら

ネットの 3 分の 1 くらいまで伸びたら、つるをネットに巻きつけ、数力所を軽く留めます。

つるはバランスよく広げて留めます。

特に夏場は、水を朝夕欠かさずあたえましょう。



【ポイント】

- 野菜を洗った水、お風呂の残り湯などを利用すれば環境にやさしく水道代も安くできますね。
(注)入浴剤や洗剤を使った水はダメ。
- 害虫対策として、植物用消毒薬を葉の裏からも忘れずにかけてください。アブラムシには直接牛乳を霧吹きでかけます。乾燥すると皮膜ができ、死んでしまうそうです。
- 夏の成長期は花を楽しんだ後は、実をつける前に花がらを摘んで、葉を繁らせるようにします。
- 秋口には来年のために種を採取し、1 日陰干してから密封して冷暗所に保管します。